

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞在者、財産、事業者が便利で安全に移動ができる。	施策の成果指標又はムトス指標	市内の移動に不便を感じる市民の割合(道路):%
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	箕瀬大休線が平成22年度に完成したことにより安全な通行が確保できた。		
	後期に向けた課題	先線である城山上河原線の改良を進める必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	箕瀬大休線が平成22年度に完成したことにより通行の利便性が向上した。		
	後期に向けた課題	工区ごとに実施しており、今後は城山上河原線改良に取り組むことにより全線開通となるため成果が向上できる。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	現地地形を活かした線形によりコスト削減を図る。		
	後期に向けた課題	城山上河原線は家屋が連担し、急峻な地形のためルート選定をより慎重に検討し、また、構造物工法の検討によりコスト削減を図る。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	1級幹線市道の改良整備である。		
	後期に向けた課題	幹線市道の改良整備であり、引き続き市が関与する。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	管理者は飯田市である。		
	後期に向けた課題	管理者は飯田市である。		
全体を通じて	4年間の振り返り	箕瀬大休線が当初予定より早く完成したことにより、早期に歩行者の安全確保と通行の利便性が確保できた。		
	後期に向けた課題	引き続き先線の城山上河原線の拡幅改良に取り組むことにより効果が発揮できる。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------